

2024年度 法科大学院

第3期入学試験問題

3時限

刑法

(論文式)

試験時間 50分

注意事項

1. 試験開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見てはいけません。
2. この問題冊子の1ページから問題が掲載されています。
3. 試験時間中に問題冊子の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁及び解答用紙の汚れ等に気付いた場合は手を挙げて監督に知らせてください。
4. 解答用紙には解答欄以外に記入欄がありますので、監督の指示に従ってそれぞれ正しく記入してください。
5. 解答は、必ず解答用紙の解答欄に記入してください。解答用紙の解答欄以外に記入された解答はすべて無効とします。解答用紙の裏面を使用する場合は「裏面に続く」と記載してください。
6. 解答用紙は各1枚しか配布しません。複数枚請求されてもお渡ししません。
7. 貸与した六法以外の参照は一切できません。
8. 試験問題の内容等について質問することはできません。
9. 問題冊子の余白等は適宜使用してかまいませんが、解答用紙の解答欄以外に記入された解答は無効とします。
10. 試験終了後、問題冊子は持ち帰ってください。

[刑法]

【設問】

次の事例におけるXとYの罪責について論じなさい。なお、日時は架空のものである。また、特別法違反についての検討は不要である。

【事例】

- ① Aは、有限会社B（以下「B」という。）の取締役であったが、C所有の東京都にある土地（以下「本件土地」という。）を購入し、これを資材置場として使用することを考えるに至った。本件土地は市街化区域外に属する農地であり、その譲受人がこれを資材置場等として使用するには、農地法に定める農地転用許可を得なければならなかった。そこで、Aは、2023年9月1日、Xに対して、一旦、本件土地の登記簿上の名義人となって貰えないかと持ちかけた。
- ② Xは、Aからの依頼に応じて、農地転用等の手続及び資材置場として使用するための造成工事終了後にBに本件土地の所有権移転登記手続をする旨を、Aの兄であるYと約束した。Yは、本件土地に係るXとの交渉につき、Aから一切の権限を付与されていた。AのYに対するこの授権は、B内部での承認手続後になされていた。
- ③ 同年10月31日、Xが代表理事を務めるE組合（以下「E」と呼ぶ。）は、Cとの間で、CがEに本件土地を売却する旨の合意書を作成した。その際、Eは、本件土地につき、農地転用許可を得ておらず、その後も、この状態が続いていた。
- ④ 同年12月1日、Xは、Yに指示し、Cに本件土地代金5,000万円を支払わせ、Cに本件土地のEへの所有権移転登記を経由させた。その後、Xは、同年12月1日からEを登記簿上の名義人として本件土地をBのために預かり保管していた。
- ⑤ その後、Xは、Y及びBに無断で本件土地を売却しようと企て、2024年7月1日、株式会社F（以下「F」という。）に、本件土地を代金6,000万円で売却譲渡し、即日、本件土地についてFへの所有権移転登記手続を完了させた。
- ⑥ Yは、Xが本件土地をFに売却するつもりであることに薄々感づいていたが、Xに注意喚起等はしていなかった。

- ⑦ Xは、その後、Yが⑤の事情を知っていたかもしれないと思うに至り、同年7月2日に、「ボーナスだ。」とって400万円を提供した。Yは、当該現金供与の趣旨を理解し、「ありがとう。」とって、これを受け取った。

以上